

第二回 サツドラ・ナレッジ・シェアリング

シンギュラリティ ってなんだ?

What is the singularity?

AI時代に求められる「人間力」とは何か?

～人間とロボットとの「コミュニケーション」について哲学してみよう～

講師



株式会社ファベル代表取締役／札幌大学名誉教授 工藤孝史

工藤孝史 (KUDO Takafumi)

1953年生まれ。専門は哲学、思想史、比較文化論。1979年札幌大学外国語学部ロシア語学科卒業。1984年北海道大学大学院文学研究科修士課程(西洋近代哲学専攻)修了。その後、駒澤大学非常勤講師などを経て1989年教養部専任講師として札幌大学着任。以後札幌大学を中心に、哲学、社会思想史、ロシア語、フランス語などを担当。1998～2000年パリ第3大学訪問研究員。2004～2010年慶応大学SFC上席研究員。2005年に株式会社ファベルを設立(代表取締役)。2019年札幌大学を定年退職。現在は株式会社ファベル代表取締役／札幌大学名誉教授。

囲碁や将棋の世界だけでなく、AI(人工知能)は現在私たちの日常生活のさまざまな場面に浸透してきています。2045年には「コンピュータが人間の知性を超える」「シンギュラリティ」が到来するという見方もあります。実際、レジや各種受付業務は機械化され、将来的には無人化やアンドロイド(ヒューマノイド)による対応が見込まれています。そうした機械化=AI化の進行の中で、私たち人間の仕事はどのように変わって行くのかはまだ判然としてはいないものの、これまでの人的な資源は「機械にできない」仕事の方へシフトして行くのは言わば自然の成り行きです。このセミナーでは、そうした現況をふまえ、そもそも人と機械はどこが共通していて、どこが違うのかというテーマに哲学の立場から光を当て、AI時代における人間の仕事や人生の意味について考えます。

隔週開催 2月19日(土)・3月5日(土)・3月19日(土) 20時スタート

1回目講義 2/19(土)20時～

ロボットってそもそも何?

1. ロボットの語源から考える
チャベックの戯曲『ロボット』(1920)のロボットイメージ
2. ロボットが人間の仕事を奪う日が来るのか
ラダイト運動は現代でも起き得るか
3. 人間のコピーとしてのロボット
ナノボットの展望する未来「人間1.0/2.0/3.0」

2回目講義 3/5(土)20時～

ロボットを知るためには人間を知らなければならない

1. 人間はどんな生き物なのか?
人間は身体と心(精神)の両面を経験している
2. 人間身体の延長としての機械技術について
サイボーグとヒューマノイド
3. 人間と同じ様に考えるロボットは可能か?
思考と計算はどこがちがうか

3回目講義 3/19(土)20時～

創造力って何?

1. 人間の心の本質はどこにあるか?
言語と想像力の関係
2. 機械が心をもつとは具体的にどういうことか?
感情をもったロボットの出現
3. 人間と機械の共存関係から何が見えるか
機械とのコミュニケーション

参考文献

- ・カレル・チャベック『ロボット』 岩波文庫
- ・石黒 浩『ロボットと人間 -人とは何か-』 岩波新書
- ・レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い(エッセンス版) -人類が生命を超越するとき-』 NHK出版